

学術情報センター ニュース

第36号目次

《トピックス》

- ・新年度にあたって……………2
- ・学術情報センターロゴ制定……………3
- ・「センターニュース考」-副所長ご挨拶に替えて- ……4
- ・NACSIS-ILLの国立国会図書館への依頼機能
運川開始……………7
- ・COE (中核的研究拠点) 形成プログラムに
よる研究活動……………8
- ・電子図書館サービス開始に向けて ……10
- ・アジア情報調査……………11
- ・韓国からの来訪者……………12

《NACSISサービス案内》

- ・「北海道大学北方資料総合目録データベース」
サービス開始……………13
- ・FAX情報サービスの開始……………14
- ・JOIS利用料金の改定……………15
- ・学術情報ネットワークATM交換機等の導入 ……16
- ・「学術雑誌目次速報データベース」
データ提供機関の参加状況……………16

- ・NACSIS-ILL利用状況(平成7年度) ……17
- ・NACSIS-IRデータベース収納状況 ……18
- ・NACSIS-CATデータベース構築状況 ……20
- ・接続ニュース……………21

《教育・研修》

- ・平成8年度教育研修事業
—平成7年度との変更点— ……22
- ・講習会日程の変更……………22
- ・平成8年度学術情報センター・セミナーの
実施予定……………23
- ・平成8年度サービス利用説明会開催……………24

《講演会など》

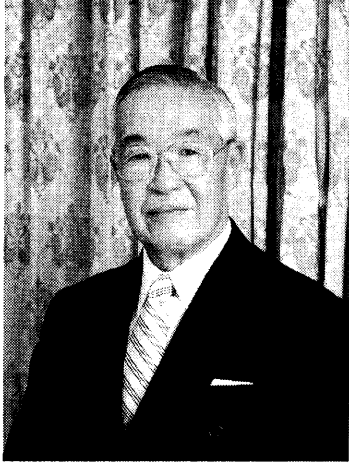
- ・「国際間でのドキュメント・サプライのあり方
をめぐる」セミナー開催報告……………26

《その他》

- ・学術情報センター刊行物一覧……………27
- ・人事異動……………28
- ・海外渡航一覧……………31
- ・学術情報センター日誌……………32

新年度にあたって

学術情報センター所長
いのせ ひろし
猪瀬 博



昭和61年に発足した当センターは、本年創立10周年を迎え、秋には記念行事を予定しております。この間、文部省をはじめ全国の大学や図書館などの諸機関、学協会および広範囲な利用者の方々の多大なご支援とご理解を頂き、まことに有難く心から感謝申し上げます。お陰様で当センターは、所期の目的達成へ向けて着実な発展を続けておりますが、我が国の学術の発展を支える情報通信基盤としての重責を果たすべく、今後一層努力する所存であります。

当センターの本部建物の建設は、創立当初からの悲願でありましたが、昨年「学術の総合情報センター（仮称）」として新営予算がみとめられ、東京都千代田区一ツ橋の地に着工の運びとなりました。これまで筑波大学および東京大学の施設を借用させて頂き大変ご迷惑をおかけして参りましたし、床面積狭隘のため国内外の共同研究も思うにまかせず、また研修受講者などの方々にも多大のご不便をかけて参りましたことを、深くおわび申し上げます。幸いにして平成11年度に無事竣工の暁には、皆様に喜んで頂けるような充実した機能が実現できるものと期待している次第であります。

当センターは、内閣に設置されている高度情報通信社会推進本部の基本方針にも具体的に明示されておりますように、学術振興のための情報通信基盤の構築を指向して日夜努力を続けております。情報通信基盤の三大要因といわれておりますのは、ネットワークとコンテンツとアプリケーションですが、それぞれについて当センターの取組みの概況を申し述べてみたいと思います。

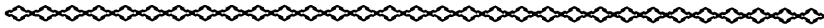
まずネットワークにつきましては、全国の多数の大学等へのATM（非同期転送モード）LANなど高性能の学内ネットワークの導入に対応して、当センターの28のノードのすべてに、高機能のATM交換機を設置するとともに、基幹回線速度を最高50Mb/sに高速化しました。これらのATM交換機は156Mb/sのマルチメディア通信を可能とするものですが、その機能を最大限に活用し高度のサービス品質を実現するとともに、より高速のネットワークを開発し、かつ国際的な相互運用性を確立することを目的として、文部省科学研究費補助金の「創成的基礎研究」により、NTTや諸大学と共同研究を進めております。

次にコンテンツにつきましては、目録所在情報データベースをはじめ52種類のデータベースを構築ないし導入し、レコード件数は6000万件を超えております。中でも目録所在情報データベースは全国の図書館のご協力を得て、レコード件数は2400万件に達しました。またILL（相互貸借）サービスも順調に発展し、英国図書館や我が国の国会図書館との間でもサービスを行っております。さらに学術論文などの全文を提供できる電子図書館につきましては、長年にわたる研究開発成果に基づき、かつ多数の学協会のご理解とご協力のもとに、目下試行運用中ですが、平成9年度からは本格的サービスに移行の予定であります。

さらにアプリケーションにつきましては、本年1月に電子計算機システムを全面的に更新

拡充して情報検索システムをオープン化するとともに、文書構造に対応した高度の検索が可能な全文データベース検索システムの開発を行って目下実験公開中であります。今後はマルチメディア機能の高度化をはじめ、多様なソフトウェアの開発を推進する計画であります。

当センターでは以上の諸活動を支える研究開発を多面的に推進するとともに、サービスが充分活用されるよう種々の教育研修を実施しております。今後とも一層のご指導、ご支援を賜わりますようお願い申し上げます。



文部省 学術情報センター

NAC SIS

学術情報センターロゴ制定

従来、センターの発行する印刷物に記されていたセンターの表記は、発行部課によって異なった書体や表記をしていましたが、センターの10周年を機会に書体（ロゴ）を上記のように統一することといたしました。

学術情報センターの組織と名称に相応しく、10周年を迎えたセンターの清新なイメージを表現するものにしようというねらいから、和文表記には、Dナール体を使用し、英文表記の略称「NAC SIS」（ナクシス）には、ITC Bauhaus Demiを使うことになりました。ただし、本センターニュースのように、すでにタイトルや書（誌）名として定着しているものについては変更しません。

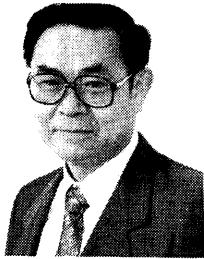
今後、センターからの封筒や新規の出版物で、この新ロゴがお目にかかることとなりますので、よろしく申し上げます。

（総務課）

「センターニュース考」

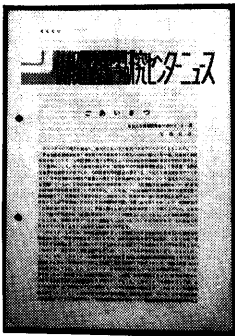
—副所長ご挨拶に替えて—

学術情報センター副所長
井上 如^{いのうえ ひとし}



口上

まいど、「センターニュース」をご愛読いただき、まことに有り難うございます。いま、手になさっている「センターニュース」について、あなたのあまりご存知ない古い話を今日は少し聞いていただきましょう。当センターはいま10年史を作っていて、創設に先立つ前前史と前史については、古くからセンターにご厄介になっているたたりで分担執筆者の一人に当たりました。とりあえずバックナンバーを調べているうちに昔のことが懐かしくなり、思わず知らずワープロの前に座ったというわけですが、一方本稿は、副所長就任のご挨拶をとという依頼だったのですが、こちらの方は意至らず筆従わず、悩んだ末、「センターニュース」からの抜き読みで替えさせていただくことにしました。ご了承ください。ところで、あなたは「センターニュース」のバックナンバーを何号からお持ちですか？ 他に埋める方法のない古いバックが欠号の場合、複写でよろしければ筆者のセットから起こしてお送りしますので、ご希望の方は連絡してください。

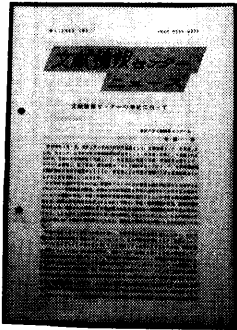


「情図セ」ニュース (ISSN0387-1894)

さて、前前史とは、東京大学情報図書館学研究センター（情図セ）のことです。創設は1976年の春ですが、当初はニュースレターを出すどころじゃなかったもので、第1号は1978年の3月1日発行、以後1983年3月末日発行の終刊号まで、B5版、全14冊、総ページ数159、平均11ページ強という、文字通りの小冊子でした。創刊のご挨拶は、初代センター長の安藤良雄先生で、以下、敬称を略させていただきますが、今井功、島内武彦、遠山敦子、吉川藤一、藤原鎮男、猪瀬博の諸氏がセンター創設の祝辞を寄せてくださいました。島内先生の祝辞は「活字文化とコンピュータ文化の調和ある融合を」という表題で、“... 本センターは、この二方向の切点に位置する。著作権など難問もあるが、へこたれずにがんばってください”と書いておられます。先生がいまおられたら、このするどい眼力で、昨今のfanaticな業界の有様についてなんとおっしゃったのでしょうか。

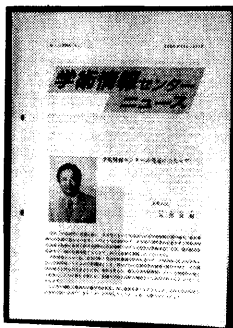
2号以降は、学術雑誌総合目録（学総目）データベース開発の進捗状況の報告を中心（第11号は全ページ、第13号もほぼ全ページ）にして、特定研究「大学図書館における情報処理トー

タルシステムの開発」の概要、藤原鎮男先生がセンター長時代に創始なさった、もっぱら外国人研究者をスピーカにした研究会の要旨、そのころから既にあったセンターシンポジウムの報告、図書館情報学セミナー生の研修レポートの要約などが誌面を埋めています。表紙の題字と英文字のデザインは、当時東京大学附属図書館におられた三島真一さんの手になるものです。



「文情セ」ニュース (ISSN0289-0305)

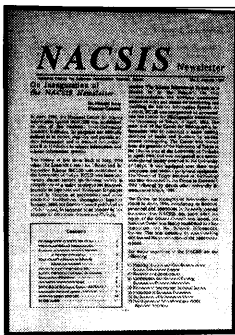
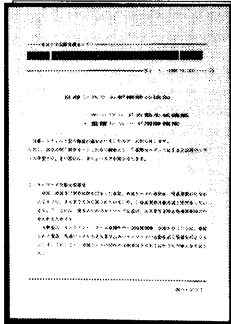
前史と申し上げたのは、東京大学文献情報センター（文情セ）のことです。「情図セ」の改組・転換によって1983年4月に設置され、1986年3月まで3年間存続しました。中心的な仕事は、目録所在情報システムの開発と試験的な運用でした。「情図セ」時代との違いから一つだけあげると、それはパートナーの存在です。「情図セ」時代の学総目はいわば出版社の仕事で、コンピュータの使い勝手から言えばバッチ処理、調査票を集めてしまえばあとは原稿整理、入出力を繰り返しながらのデータの照合・修正と編集、印刷、出版でしたが、「文情セ」時代の目録システムは、参加機関である大学図書館とオンラインで結ばれたままですから、それがパートナーによる、パートナーのための記事が多いという事実となって「文情セ」ニュースに反映しています。参加機関にとっても、「文情セ」にとっても必読のメディアとなりました。1984年7月7日に、筑波大学大塚地区E館の新庁舎が完成して、廊下で開所式が行われ、東大総長、文部省学術国際局長、東大附属図書館長、東大大計センター長他の来賓を前に猪瀬所長がご挨拶をするところを撮った、「センターニュース」史上初めての写真入りの記事は、「文情セ」ニュース第4号の29ページにちょこっと（17行）載っているだけというのが、この間の事情を如実にものがたっています。なお、「文情セ」ニュースの題字デザインは、文部省情報図書館課（当時）の長岡篤さんによるものです。



「学情セ」ニュース (ISSN0912-5922)

さて、学術情報センター（学情セ）は冒頭述べたように創設以来10年が過ぎ、その間にニュースレターは35号まで刊行されましたが、これについては一言や二言で言い尽くすことなど、もとより不可能です。強いて一つだけ異色を拾えば第16号（1991年6月）、創立5周年特集号です。「5周年に寄せて」は、センターの設立や管理業務に直接携わった7人の方々の寄稿で、現代史の記述特有の生々しさがあります。一方センター側からの報告は「5周年の歩み」ですが、中にタスクフォースに関する記述が1項目あり、そこに1984年から1988年まで活躍した特殊部隊45名の戦士のお名前が墓碑銘のように並んでいます。記

載に、“その昼夜を分かつたぬ奮戦ぶりで全国の大学に有名を馳せた”とあります。「勇名」と書くべきところ、わざと間違えて意を尽くしています。



通観／史観

1978年3月以来60冊刊行された「センターニュース」を見渡すと、「情図セ」ニュースは学総日の時代、「文情セ」ニュースは目録システムの時代、対して「学情セ」ニュースはエンドユーザー／学会対応の時代を反映しているのが分かります。よりeticな表現を使えば、「情図セ」ニュースは総合目録の時代、「文情セ」ニュースは書誌ユティリティの時代、「学情セ」ニュースはネットワークの時代の写しでしょう。逐次刊行物としてのスタイルで表現すれば、それぞれ同人誌の時代、機関誌の時代、広報誌の時代です。目録システムの利用者向けの「オンライン・システムニュースレター」が分離・独立したのが1985年11月16日、機関誌の時代にふさわしい出来事でした。「学情セ」ニュース第22号（1992年12月）以後、研究開発に関する記事が突如誌面から姿を消しましたが、これで広報誌という性格が明確になりました。また1988年8月には姉妹誌の「NACSIS Newsletter」(ISSN 0915-7018)を創刊しました。13号まで出ています。現在、お姉さんの同人誌の時代にあります。

20年間にわたる「センターニュース」の折り目、節目に着目しながら、いま手になさっている61冊目までできました。駆け足どころか、ホップ・ステップ・アンド・ジャンプでしたが、10年史にはもう少し詳しく書きたいものです。ただし学術情報センター内では、10年や20年の過去など振り返るに値しない、ただ前進あるのみだという、超・史観が主流です。

なお、「学情セ」ニュース第21号と第30号には、歴代副所長をお勤めになった方々のうち、西田龍雄先生と山田尚勇先生の就任のご挨拶がそれぞれ載っていて、言語学で修行をした人に特有の煮詰まったものの考え方と、達意の文章に接することができます。

文献

- 井上 如 “東京大学情報図書館学研究センター：この7年”
大学図書館研究 22:148-154 (1983.5)
- 井上 如 “文献情報センターから学術情報センターへ
 —情報特性論からのスケッチ—”
大学図書館研究 29:41-43 (1986.12)

NACISS-ILLの国立国会図書館への 依頼機能運用開始

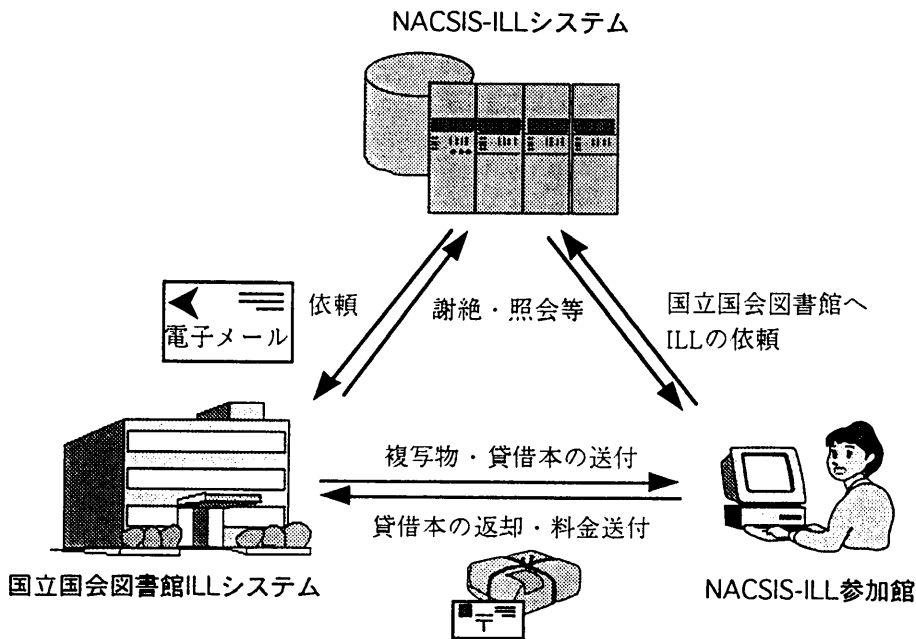
NACISS-ILLサービス開始当初から待望されていた国立国会図書館への文献複写／貸借依頼機能の運用を、平成8年4月17日から正式に開始した。これにより、NACISS-ILL参加館は、従来、郵送やFAXで行っていた国立国会図書館への依頼をNACISS-ILL業務と一本化して行えるようになった。

また、国立国会図書館にとっても、総合目録データベースやJPMARCに基づく正確なデータで依頼を受けるられるようになり、書誌調査が軽減された他、帳票作成等においても業務の合理化がはかられた。

サービスの開始にあたっては、国立国会図書館において記念式典およびデモンストレーションが行われ、両機関の相互協力協定（センターニュース32号p.5）締結後最初のプロジェクトの成功を祝った。



猪瀬所長、林文部省学術情報課課長、緒方国立国会図書館館長によるテープカット



COE(中核的研究拠点)形成プログラムによる 研究活動

学術情報センター教授
おの かんじ
小野 欽司

学術情報センターでは、平成7年度より、文部省の推進するCOE(中核的研究拠点)の機関支援プログラムに指定され、研究活動を開始した。課題名は「学術情報の高度化および次世代情報ネットワークの構築に関する研究」である。その一環として、外国人研究員1名とポストドクター2名を招き以下のような研究を実施しているので報告する。

ウルトリッヒ・ワッテンベルグ研究員は、現在GMD(ドイツ国立情報処理研究所)計算機アーキテクチャソフト技術研究所所長補佐であり、1995年11月から1996年3月までの間学術情報センターにCOE研究員として招聘された。ワッテンベルグ研究員は、学術情報の国際流通を促進するための情報システムの諸要件について、日本とドイツとの比較を通じて研究した。特に情報の「内容」(コンテンツ)、すなわちデータ、文書、図書等を調査対象とし、中でも図書情報の利用体制に焦点を当てた。

その結果、日本とドイツの図書館体制を比較してみると、両国の社会・政治体制の差を差し引いても、興味深い相違が看取された。

電子図書館は、学術情報流通における多くの問題の解決策になると思われるが、その実現は容易ではない。ドイツにおいては、新しい技術体系の導入は往々にして進展が遅く既存図書館の電子化も緩やかなペースで進められている。一方、日本では、技術的可能性が、それらに対する真の要求や長期的展望への考慮を欠いたまま実験されることがある。この点で、ドイツ研究振興協会(DFG)の図書館評議会の勧告は日本にとって参考になる。日本とドイツの専門家による定期的な会合を発足させることが必要であるとの提言をした。

小口正人研究員は、東京大学工学部で広域分散環境における分散共有メモリの研究を行なって博士号を取得した後、1995年4月から1996年3月まで学術情報センターのCOE研究員を勤めた。小口研究員が当センターで行なった研究成果の概要を以下に紹介する。

ネットワーク技術の進歩により、ネットワークを介した情報の提供・収集が広く一般に行われるようになってきた。こうした環境の変化に伴って、莫大な情報の海の中から必要とする情報を抽出し素早く獲得するための技術が不可欠となってきた。特に広域分散ネットワーク環境においては、遠方のノードや接続性の悪いノードからデータをダウンロードするのに大きなコストがかかるのが特徴である。キャッシュリレーは、このコストを削減するための一つの方法で、クライアント・サーバ間のやり取りの仲介を行い、サーバからダウンロードしたデータをキャッシュする機能を持つ。小口研究員は、キャッシュリレーの新しい実現方式を提案し検討した。

現行のキャッシュリレーメカニズムにおいては、次のような問題点が存在する。第一に、マルチメディアデータのような大きなサイズのファイルをキャッシュすることは困難であるという点があげられる。第二に、近傍のキャッシュリレー間の連携がないため、すぐ近くのキャッシュリレーにリクエストファイルが存在してもこれを活用できないということ

がある。これらの問題を解決するために、次の2つの提案を行った。まずファイルサイズの問題に対しては、キャッシュレーにおいて単にファイルの仲介を行うだけでなく、ファイルの品質レベルをコントロールするなど、積極的にファイルの中身に立ち入って処理を行う方式を考案した。またレー間連携に関しては、近傍のキャッシュレー間でクラスタを形成し連携を行うことを提案した。最後に、これらの方針を組み合わせたキャッシュレーメカニズムの実現方式を示した。

後藤田洋伸研究員は、東京大学理学部で曲面の形状モデリングに関する研究を行なって博士号を取得した後、1996年1月から学術情報センターのCOE研究員を勤めている。コンピュータ・グラフィクスやグラフィカル・ユーザインターフェースをテーマとする後藤田研究員が、当センターで行なっている研究内容は次のとおりである。

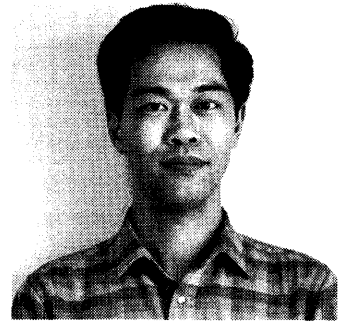
コンピュータ・グラフィクスの発展に伴い、より精密な形状情報を生成し、より現実感のある可視化の方式が求められている一方、複雑な形状情報を効率的に扱う枠組の必要性も増大している。後者の問題に対する一つの解決法は、形状情報を抽象化することで、大量の形状情報を扱う際や、分散環境下で処理を行なう際などにもその効力を発揮する。

後藤田研究員のアプローチは、折り紙という一つの抽象化された世界を調べることによって、現実の世界で出くわす複雑な形状情報を、どのようにして抽象化された世界のものに変換し、操作し、さらに抽象化の際に切り捨てた情報をどのようにして復元するのか、などについての知見を得ようというものである。

学術情報センターではCOE研究員を交えて、COEをめざした月例のディスカッションを重ねており、徐々にターゲットを定めセンターとしての研究面での新しい特徴を出していく予定である。



ウルトリヒ・ワッテンベルグ研究員



後藤田洋伸研究員



小口正人研究員

電子図書館サービス開始に向けて

電子図書館サービスは、現在行っている試行を発展・強化し、平成9年度からの事業開始を予定している。サービス開始に向けて今年度の計画は、次のとおりである。

1. 電子図書館システム

サーバ側のシステムと利用者側のクライアント・ソフトウェアについては、今年度内に2回の改訂を行う計画である。また、クライアントの動作するプラットフォームも増やし、パソコン上でも動くようにする計画である。

2. 試行サービス

平成8年4月現在で、約280名のモニターが試行サービスを利用して、電子図書館システムの評価を行っている。インターネットのメーリングリストを利用し、各モニターからの意見を受けており、システムの改善に役立てている。試行サービスおよびモニタリングは、今年度末まで継続し、改訂後の新しい電子図書館システムのモニタリングを行う。

3. データ作成

本センターニュース35号で報告した22学会に加えて、日本物理学会、史学会の試行参加があり、平成7年度は、56誌、55,000論文、45万ページのデータ作成を行った。現在、順次、電子図書館システムへの搭載の処理を行っている。今年度も、新たな学会に対する参加の呼びかけを行い、サービス開始に向けてのデータ作成を行う予定である。

4. 学会との協議

電子図書館サービスで提供する学術情報は、学会などの発行する学会誌、論文誌に掲載された論文などであり、学会の許可を得て電子化するものである。そこで、学会の持つ著作権を尊重しながら、学術情報の円滑な流通を図るという立場で学会との協議を行い、来年度のサービスの準備を行う。できるだけ多くの学会から、電子図書館サービスへのデータ提供について理解が得られることを期待している。

5. サービス方法の確立

サービスの基本方針（本センターニュース33号参照）に基づいて、さらに詳細につめて行く予定である。基本方針では、サービス利用者の単位は、原則として学会や大学などの機関となり、その機関に属する者が利用する形をとることにしている。方針が決まり次第、電子図書館サービスの広報と利用者の募集を予定しており、サービス開始に合わせて、利用者の登録を行っていききたい。

6. 利用料金など

利用料金や著作権料は、関係諸機関との協議により決定することとしている。

電子図書館サービスの開始により、学術情報の原文献提供の迅速化が期待される場所であり、学協会、大学等の関係機関に対し、本サービスへの一層のご理解、ご協力をお願いしたい。

(データベース課)

アジア情報調査

学術情報センターでは、平成7年度下期に国際交流基金アジアセンターから研究助成を得て、「アジア・スーパーハイウェイ上のアジア情報」および「日・タイの学術情報提供機能の強化」（研究代表者：小野欽司）と題する調査研究を行っている。これは、現在、実施中の科学研究費国際共同研究である「海外における日本情報の需要と供給に関する研究」（研究代表者：井上如）および同「学術情報の国際交換に関する実証研究」（研究代表者：小野欽司）のタイ・プロジェクトと連携する活動である。アジアセンター助成研究は、センター内では「アジア情報調査」と略称しており、目的、成果などは次のとおり。

アジア諸国と日本との間における学術情報流通を、通信ネットワークの整備によって、いっそうの拡大・充実を図るための調査分析。アジア情報（日本からは相手国情報）に対する需要の在処を、アジア各国および日本国内の法人・個人あるいはプロジェクトのレベルで確認調査し、ネットワークを介した情報アクセスを実現するために必要な方策を、技術的・運営的観点から検討する。第一段階の相手国としてタイ国を選び、タイ国における日本情報および日本におけるタイ情報に関する需要を調査する、という目的のもとに、サブテーマは下記7項目となった。

- (1) ワークショップ (WAINS 2) の開催 (1995年12月13日)
- (2) 日本におけるタイに関する研究者の推計 (225人/プロジェクト)
- (3) 日本におけるタイ関係の研究者に関わるアンケート調査 (有効回答115名)
- (4) 日本に関する研究者データベースの試験的設計
- (5) 海外モニター制の検討
- (6) バンコク、シンガポール、香港調査 (1996年1月9日-18日)

鈴木新一（事業部ネットワーク課国際情報専門員）、志津田嘉康（事業部システム管理課システム管理係長）、木村優（事業部データベース課全文データベース係長）、米澤誠（事業部目録情報課雑誌目録情報係長）、内藤衛亮（研究開発部教授）以上の5名の派遣のほか、田中恵庫（管理部会計課長補佐）が随行した。

- (7) ネットワーク上でのタイ語関連情報に関わる調査 (Netscapeによるタイ文字表示)

サブテーマ第6項の「バンコク、シンガポール、香港調査」では、特にバンコクの二大大学において、NACSIS-CAT、NACSIS-IR、Netscapeなどのデモンストレーションを行い、ネットワーク状況と回線速度を実感し、今後の判断材料を得ることができた。英国の大学図書館によるNACSIS-CATの利用とは、相当に様相の違うことが判明した。

第一期の報告書は「アジア・スーパーハイウェイ上のアジア情報平成7年度報告」として刊行される。この調査研究は、引き続き、平成8年度にも継続助成が認められている。国際交流基金をはじめ、関係方面の厚いご支援を賜ったことを記して感謝申し上げますとともに、なおいっそうのご助言・示唆をお願い申し上げます。

(内藤衛亮)

韓国からの来訪者

平成8年3月25日(月)より28日(木)にかけて、科学研究費国際共同研究「海外における日本情報の需要と供給に関する研究」(研究代表者:井上如)により、韓国のいくつかの機関から専門家を招へいし、韓国における日本情報に関する需要の諸相、電子図書館サービスをはじめとする当学術情報センターの適用可能性などについて討議する機会を得た。

韓国教育部(=文部省)は1996年度に、学術情報センター・システム構築のための予算を計上している。これには、大学ネットワークの拠点であり、国立大学図書館の中核となる図書館を備えたソウル大学、日本学術振興会および文部省研究助成課に相当する機能を果たしつつ、学術雑誌総合目録を編纂している韓国学術振興財団などが、教育部と連携しつつ、全国システム構築に着手するものと推察できる。

平成8年2月にはソウル国立大学図書館長CHIN Kyo-Hun教授の招へいに引き続き、今回は韓国学術振興財団情報センター、日本科学技術情報センターに相当する韓国産業技術情報院、民間財団を母体とする韓国社会科学図書館から、幹部級の方々を招へいすることができた。

ソウル国立大学図書館では、1994年以来、NACSIS-CATを教育モードによって試験および評価を行っている。自館のシステムとの整合性評価や学術情報に関わる全国システム構想の確立などの課題があり、NACSIS-CATの本格利用には至っていないが、今年度の教育部予算のあり方が契機となって、近い将来に大学図書館ネットワークが確立される見通しである。このような状況であったため、招へいした方々の質問は具体的かつ細部にわたるものであった。招へい者は次のとおり(韓国学術振興財団の二人の旅費は先方負担による)。

(内藤衛亮)

Ms. KIM Suk Young, Ph.D.	韓国産業技術情報院情報資源部長
Mrs. LEE Yong Joo	韓国社会科学図書館長
Mr. JEE Jeong-gyu	韓国学術振興財団情報センター長
Dr. LEE Jae-wan	同上、アドバイザー
Mr. KIM Ju-bum	同上、情報システム係長

「北海道大学北方資料総合目録データベース」サービス開始

北海道大学附属図書館が収集・所蔵する、北方研究に関する文献の目録情報を収録した「北海道大学北方資料総合目録データベース」のサービスを平成8年6月1日（土）から開始しましたので、その概要などをお知らせします。

1. 概要

(1) 収録対象

北海道大学附属図書館が収集・所蔵する北方研究に関する文献（北海道・ロシア極東などの北方地域に関する歴史学・地理学・人類学・民族学・言語学）。

(2) 収録件数

サービス開始時の件数は約43,000件。

(3) 収録項目

標題、著者・編集者名、収録目録名、刊年、所蔵館名、解題、注釈など。

(4) 呼び出しコマンド

「HOPPO」

(5) その他

本データベースは、北海道大学附属図書館が作成したデータベースを、同図書館の協力を得てサービスを行うものです。

2. 利用方法

データベースの内容および利用方法などについては、「NACSIS-IRデータベースシート（HOPPO）」をご覧ください。

なお、データベースシートについては、お手元のFAXから取り寄せることもできます。

詳しくは、センターニュース本号の「FAX情報サービスの開始」をご覧ください。

3. 利用料金

データベースを呼び出す都度・・・30円/回

なお、利用に係る経費は、各データベースの利用額の月毎の合計額にその3%を加算した額となります。

(データベース課)

F A X 情報サービスの開始

必要な情報がF A Xからすぐ取り出せるサービス(F A X情報サービス)を、平成8年4月から一部の情報を掲載し試行的に行ってきましたが、平成8年6月から下記の情報を掲載し正式にサービスを開始しました。掲載する情報は、今後さらに拡充していく予定ですので、たくさんの利用をお待ちしています。利用する場合の操作方法は下記のとおりです。

●操作方法

①お手元のF A Xの受話器を取ります。

〔受話器の無いF A Xでは、手動受信に切り換えてください。
また、ダイヤル回線では、トーンボタンの切り換えを行ってください。〕

②学術情報センターのF A X情報サービスにダイヤル(03-3942-7865)します。

③音声ガイドに従って、ご希望の資料の「BOX番号(資料番号)」と「#」を押します。

④終了は「#」を押します。(続けるときは③の操作をします。)

⑤F A Xの「受信」ボタンを押し、受話器を置きます。

(F A Xにより指定した資料が送られます。)

●メニュー (BOX番号一覧)

BOX番号	資 料	内 容	頁数
00	総合案内	メニュー (BOX番号一覧)	1
01	連絡先一覧	学術情報センター連絡先一覧	1
02	地図	学術情報センター案内図	1
09	資料申込み書	F A Xによる資料の請求	1
10	サービス案内	情報検索・電子メールのパンフレット	5
20	概要	学術情報センターの概要	4
30	目録所在情報サービス	目録所在情報サービスのパンフレット	4
40	電子図書館サービス	電子図書館サービスのパンフレット	2
50	学術情報ネットワーク	学術情報ネットワークのパンフレット	6
60	WWW資源提供サービス	WWW資源提供サービスの説明資料	5
70	利用説明会案内	利用説明会の開催要項・申込み票	1
100	データベースシート	データベースシートの目次	2
500	講習会案内	講習会の目次	1

(共同利用第一係)

JOIS 利用料金の改定

日本科学技術情報センター（JICST）から、「JICST化合物辞書名称ファイル」の提供およびJOIS利用料金を平成8年4月1日から改定する旨の連絡がありましたので、改定後のJOIS利用料金をお知らせします。

なお、学術情報センター（NACSIS）を経由してJOISを利用している方は、今までどおり、基本料金（1,000円/月）は無料となります。

また、大学などの利用者については下段かっこ内の利用料金で利用できます。

JOIS利用料金、JOIS利用申し込みの詳細については、JICSTの各支部・支所にお問い合わせください。

改定後のJOIS利用料金

データベース名	接続料	オンライン出力料	オフライン出力料
JICST 科学技術文献ファイル	110円/分 (70円/分)	95円/件 (25円/件)	105円/件 (25円/件)
JICST 速報ファイル	110円/分 (70円/分)	75円/件 (25円/件)	80円/件 (25円/件)
JICST 科学技術研究情報ファイル	110円/分 (70円/分)	95円/件 (25円/件)	100円/件 (25円/件)
MEDLINE医学文献ファイル	70円/分 (40円/分)	30円/件 (25円/件)	55円/件 (25円/件)
JICST 資料所蔵目録ファイル	50円/分	—	—
JICST・医中誌国内医学文献ファイル	110円/分	115円/件	120円/件
JICST 科学技術医学文献ファイル(英文)	110円/分 (70円/分)	95円/件 (25円/件)	100円/件 (25円/件)
JICST 化合物辞書名称ファイル	50円/分 (50円/分)	50円/件 (25円/件)	— (—)
日刊工業記事情報ファイル	110円/分	105円/件	125円/件
日経産業新聞ファイル	110円/分	105円/件	125円/件
食品産業情報ファイル	110円/分	85円/件	115円/件
大阪市都市工学情報ファイル	110円/分	95円/件	105円/件
MeSH医学用語ファイル	50円/分	—	—
IRRD道路文献ファイル	110円/分	70円/件	100円/件
原子力情報ファイル	—	—	—
研修ファイル	—	—	—
JICST 科学技術文献ファイル*	50円/分 (30円/分)	135円/件 (60円/件)	145円/件 (60円/件)
JICST・医中誌国内医学文献ファイル*	50円/分	160円/件	170円/件

1. 研修ファイルは、「JICST科学技術文献ファイル」、「JICST・医中誌国内医学文献ファイル」および「MEDLINE医学文献ファイル」の練習用です。
2. オフライン手配料（700円/回）などその他の料金は正規の料金となります。
3. *のデータベースは接続料の比重を少なくしており、メニュー方式などの利用に最適な料金システムです。

(共同利用第二係)

学術情報ネットワークATM交換機等の導入

平成7年度補正予算により、以下の機器等が新たに導入され、これにより学術情報ネットワークのさらなる高速化への対応と、学内ATMネットワークシステムの接続および効率的な運用管理が可能となりました。

(1) 新ATM交換機

全国の29ノード機関等(学術情報センター含む)に設置、NTT製NS8000、処理能力10Gbps(2.5Gbps)、回線速度1.5~156Mbpsに対応する。

(2) 高性能IPルーター

12ノード機関等(学術情報センター含む)に設置、Netstar社製Giga Router、処理能力20.8Gbps、インターフェイスはATM, FDDI, HIPPIに対応する。

(3) ネットワーク管理装置システム

学術情報センターに設置、大型表示装置に多様な表示形式で学術情報ネットワークの運用状況等を表示し統合的なネットワーク運用管理を実現する。

(ネットワーク課)

「学術雑誌目次速報データベース」 データ提供機関の参加状況

前々号以降、「学術雑誌目次速報データベース」に対するデータ提供の申込みが31機関からあり、平成8年4月25日現在データ提供機関の参加状況は以下のとおりです。

	機 関 数	組 織 数	雑 誌 数
国 立 大 学	66	163	857
公 立 大 学	8	11	47
私 立 大 学	80	87	466
短 期 大 学	23	23	43
高 等 専 門 学 校	15	15	17
そ の 他	13	13	30
合 計	205	312	1,460

(最新の参加機関、収録対象雑誌の一覧はGopherでも見ることができます。URLはgopher://gopher.nacsis.ac.jp/11/ir/sokuhoです。)

(データベース課)

NACSIS-ILL利用状況（平成7年度）

平成7年度のNACSIS-ILLシステムの利用状況は以下のとおりです。

1. 利用機関

区 分	国立大学	公立大学	私立大学	その他	計
機 関 数	97	15	120	47	279
参加組織数	231	21	136	47	435

2. 月別レコード件数

年 月	複 写	貸 借	計
1995年4月	34,640	1,206	35,846
5月	46,256	1,886	48,142
6月	50,612	2,494	53,106
7月	45,488	2,357	47,845
8月	40,408	2,262	42,670
9月	46,652	1,922	48,574
10月	50,791	2,409	53,200
11月	51,111	2,758	53,869
12月	36,248	2,049	38,297
1996年4月	46,864	2,708	49,572
2月	46,027	2,397	48,424
3月	40,142	2,011	42,153
合 計	535,239	26,459	561,698

3. 図書館種別間の流動

上段：複写件数 中段：貸借件数 下段：合計

依頼館 \ 受付館	国立大学	公立大学	私立大学	その他	合 計
国立大学	429,489	685	10,840	7,253	448,267
	17,612	153	1,874	442	20,081
	447,101	838	12,714	7,695	468,348
公立大学	8,695	297	2,132	158	11,282
	441	18	289	22	770
	9,136	315	2,421	180	12,052
私立大学	22,218	1,326	30,760	1,177	55,481
	2,028	108	2,044	153	4,333
	24,246	1,434	32,804	1,330	59,814
その他	13,271	765	5,823	343	20,202
	905	17	286	60	1,268
	14,176	782	6,109	403	21,470
合 計	473,673	3,073	49,555	8,931	535,232
	20,986	296	4,493	677	26,452
	494,659	3,369	54,048	9,608	561,684

(相互協力係)

NACSIS-IRデータベース収納状況

平成8年4月19日現在

No.	データベース名称	収納件数	収録期間
1	科学研究費補助金 研究成果概要データベース	171,792	昭和60年度～
2	学位論文索引データベース	121,134	昭和59年度～
3	学会発表データベース	231,743	昭和62年3月～
4	学術論文データベース第一系(電子)(全文) (抄録)	3,716 6,351	平成元年度～
5	学術論文データベース第二系(化学関連)	17,939	昭和58年1月～
6	学術論文データベース第五系(理学関連)	6,385	平成3年3月～
7	海外研究プロジェクトデータベース	80,972	平成4年1月末現在
8	民間助成研究成果概要データベース	3,759	昭和39年度～
9	経済学文献索引データベース	142,264	昭和58年1月～
10	学会予稿集電子ファイル	163,215	1955年4月～
11	臨床症例データベース	6,016	1984年4月～
12	学術雑誌目次速報データベース	35,802	
13	雑誌記事索引データベース	1,241,054	1984年1月～
14	民間助成決定課題データベース	3,939	1994年4月～
15	現行法令データベース	3,745	平成6年10月末現在
16	維新史料綱要データベース	28,667	
17	古文書目録データベース	3,014	
18	木簡データベース	15,925	
19	研究者ディレクトリ	126,561	平成5年12月現在
20	データベース・ディレクトリ	1,752	平成6年7月現在
21	家政学文献索引データベース	106,353	1979年1月～
22	RAMBIOS	10,309	1983年4月～
23	化学センサーデータベース	18,086	1975年1月～
24	日本独文学会文献情報データベース	22,316	1980年～
25	スラブ地域研究文献データベース	3,373	1988年～
26	電気化学データベース	80,732	
27	文化財科学文献データベース	13,873	1879年1月～
28	化学と教育誌データベース	3,537	1972年1月～

No.	データベース名称	収録件数	収録期間
29	現代邦楽作品データベース	1,665	1963年1月～
30	日本建築学会文献索引データベース	71,781	1976年1月～
31	Life Sciences Collection PLUS Marine Biology and Bio Engineering	1,545,399	1982年1月～
32	MathSci	1,769,673	1940年1月～
33	COMPENDEX PLUS	3,226,383	1976年1月～
34	Harvard Business Review	2,829	1927年1月～
35	ISTP & B	2,718,669	1982年1月～
36	EMBASE	3,765,538	1984年4月～
37	SciSearch	9,759,163	1983年1月～
38	Social SciSearch	1,690,877	1983年1月～
39	A & H Search	1,528,028	1983年1月～
40	目録所在情報データベース (和図書)	1,154,356 14,621,055	
41	目録所在情報データベース (洋図書)	2,374,714 7,283,123	
42	目録所在情報データベース (和雑誌)	82,647 1,694,062	
43	目録所在情報データベース (洋雑誌)	129,763 1,145,484	
44	科学技術関係欧文会議録データベース	46,741	昭和60年1月～
45	アメリカン・センター図書館 総合目録データベース	5,883	平成5年10月末現在
46	JPMARC	1,793,723	1868年1月～
47	LCMARC(Books)	4,003,521	1968年1月～
48	LCMARC(Serials)	703,872	1973年1月～
49	大型コレクションディレクトリ	509	1978年4月～
50	日本の医学会会議録データベース	19,486	1990年1月～
51	学術関係会議等開催情報 (日本学術会議編)	16,257	1991年4月～
52	学協会集会スケジュール (日本工学会編)	5,641	1991年4月～

(注) No40～43のデータベースの上段は書誌件数，下段は所蔵件数。(システム業務係)

NACSIS-CATデータベース構築状況

平成8年4月19日現在

データベース名称		収納件数	備考(収録期間等)	
総 合 目 録 デ ー タ ベ ー ス	和 図 書	書 誌	1,155,090	
		所 蔵	14,633,618	
	洋 図 書	書 誌	1,640,469	
		書誌(遡及)	734,872	
		所 蔵	7,288,005	
	和 雑 誌	書 誌	82,873	
		所 蔵	1,712,485	
	洋 雑 誌	書 誌	129,946	
		所 蔵	1,146,985	
	著 者 名 典 拠		857,931	
	統 一 書 名 典 拠		9,394	
	和 雑 誌 変 遷 マ ッ プ		9,114	
洋 雑 誌 変 遷 マ ッ プ		13,314		
参 照 フ ァ イ ル	LC/MARC	洋 図 書 書 誌	4,828,093	1968年1月~1996年 4月
		洋 雑 誌 書 誌	703,872	1973年1月~1996年 3月
		非 文 字 書 誌	268,147	1973年1月~1993年 7月
		洋 書 著 者 名 典 拠	2,869,833	1977年1月~1996年 4月
		洋 書 統 一 書 名 典 拠	167,053	1977年1月~1996年 4月
	JP/MARC	和 図 書 書 誌	1,799,913	1948年1月~1996年 4月
		和 雑 誌 書 誌	95,846	1968年8月~1994年10月
		和 書 著 者 名 典 拠	327,561	
	UK/MARC	洋 図 書 書 誌	1,545,374	1950年1月~1996年 4月
	TRC/MARC	和 図 書 書 誌	471,368	1985年4月~1996年 4月
	GPO/MARC	洋 図 書 書 誌	393,197	1976年1月~1996年 3月

(システム業務係)

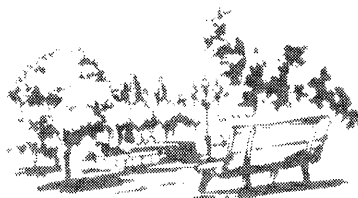
接続ニュース

前号以降、新たに目録所在情報サービスの参加機関となった図書館は、以下のとおりです。
(平成8年5月14日現在)

No.	機 関 名	接続日	No.	機 関 名	接続日
424	奈良産業大学	8.1.19	438	国立科学博物館	8.3.25
425	聖路加看護大学	8.1.22	439	昭和大学	8.3.27
426	立正大学	8.1.23	440	宮城県図書館	8.3.29
427	甲南大学	8.1.26	441	大英図書館	8.3.31
428	兵庫大学	8.1.30	442	オックスフォード大学	8.3.31
429	ノートルダム女子大学	8.1.31	443	ケンブリッジ大学	8.3.31
430	国立がんセンター	8.2. 5	444	シェフィールド大学	8.3.31
431	東京女子医科大学	8.2.16	445	スターリング大学	8.3.31
432	新潟薬科大学	8.2.27	446	ロンドン大学	8.3.31
433	総合研究大学院大学	8.3. 4	447	日本ルーテル神学大学	8.4. 1
434	呉大学	8.3. 5	448	国際交流基金	8.4. 4
435	共栄学園短期大学	8.3. 5	449	神戸女子大学	8.4.15
436	大阪成蹊女子短期大学	8.3.18	450	常葉学園富士短期大学	8.4.26
437	聖和大学	8.3.21	451	西南女学院大学・短期大学	8.5.14

この結果、参加機関数は、国立大学98、公立大学35、私立大学228、共同利用機関12、短期大学27、高等専門学校7、その他44、合計451となりました。

(共同利用第一係)



平成8年度教育研修事業

—平成7年度との変更点—

従来の講習会のコース名称および開催コースを以下のように一部変更しましたので、受講申込みの際はご注意願います。

1. 情報ネットワーク担当職員研修（コース名称の変更）

ネットワーク管理を行う職員を対象とした研修であることを明確にするため、コース名称を「入門」「管理」から「管理Ⅰ」「管理Ⅱ」に変更しました。

2. NACSIS-IR講習会（開催コースの変更）

平成8年度はNACSIS-IRシステムの移行時期にあたるため、従来の基礎コースⅠの内容に重点を置いた1日間のコースのみを開催します。

なお、NACSIS-IR地域講習会は、従来通り2日間の日程で実施します。

3. 電子メールシステム講習会（開催コースの変更）

平成8年度は電子メールシステムの移行時期にあたるため、従来の基礎コースの内容に重点を置いた1コースのみを開催します。

(研修課)

講習会日程の変更

「平成8年度教育研修事業要綱」でお知らせしました講習会の日程を以下のように一部変更します。

受講申込みを予定されていた皆様には大変ご迷惑をお掛け致しますが、お申込の際はご注意願います。

講習会名	開催機関	開催期間	申込み締切日	要綱記載頁	備考
ILL地域講習会	東京工業大学	8.9.26 (木)～8.9.27 (金)	8.8. 2 (金)	P.16	変更前
		↓			
		8.10.7 (月)～8.10.8 (火)	8.8. 2 (金)		変更後
NACSIS-IR 地域講習会	同志社大学	8.7. 9 (火)～8.7.10 (水)	8.5.31 (金)	P.21	変更前
		↓	↓		
		8.10.7 (月)～8.10.8 (火)	8.8.30 (金)		変更後

なお、お申し込みは、「教育研修事業要綱」の推薦書に必要事項を記入の上、本センター研修課企画係にお送りください。

(研修課)

平成8年度学術情報センター・セミナーの実施予定

学術情報センターでは、昭和62年度以降休止していたセミナーを平成7年度に試行的に再開し、3機関3名の研修員が全課程を無事修了しました。本年度からは正式に学術情報センター教育研修事業として位置付け、下記により実施します。

1. 学術情報センター・セミナー実施要領

(1) 目的

高度化する学術情報システム的环境に対応し得る知識と技術を修得し、各大学における学術研究支援活動の中核となる要員の育成を目的としています。

(2) 期間

平成8年10月7日(月)～12月20日(金)の11週を前期、平成9年1月13日(月)～2月28日(金)の7週を後期とし、前後期18週の日程で実施します。

(3) 会場

学術情報センターで実施します。

(4) 対象者

原則として、国公立大学等の附属図書館または大型計算機センター等の情報処理関連機関に勤務し、セミナーの目的に合致した研修目標および課題遂行のための適切な能力を有する年齢35歳までの職員を対象としています。

(5) 定員

3名

(6) 主な研修内容

①個別研究

研修員が各自で研修課題を設定し、学術情報センター教官の指導を受けながら研修課題を遂行し、その研修成果を研究レポートとして学術情報センターに提出します。本セミナーにおいて最も大きな比重を占めるものです。

なお、参考までに、平成7年度の研究レポートの標題は以下のとおりです。

「インターネット向け画面型検索インターフェースの設計」

「目録システムと外字管理」

「OPACのための主題検索支援シソーラス」

②一般講義

学術情報センター教官および外部招聘講師の講義です。

③演習

研究レポート作成を含む研修期間中の作業の大部分はワークステーションによって行います。その準備として、ワークステーションに習熟するための実習を行います。

④研究成果発表

研修期間中の、着手発表会、中間発表会、最終発表会の場で、各研修員が発表を行います。

各研修員は研究レポートを作成し、研修最終日までに学術情報センターに提出します。学術情報センターは、提出された研究レポートを「学術情報センター・セミナー研究レポート」として刊行します。

(7) 経費

国立学校および文部省施設等機関職員の研修出張旅費等については、「文部省所管日額旅費支給規程第2条」による額を、学術情報センターが負担します。

2. 応募要領

(1) 応募方法

「平成8年度学術情報センター・セミナー実施要項」に示す様式により、各所属機関の長から学術情報センター所長に推薦してください。実施要項は各大学宛にお送りしています。

(2) 応募締切日

推薦書の応募締切日は平成8年8月23日（金）（必着）です。

(3) 選考

推薦書をもとに研修員を選考し、各所属機関の長に通知します。

3. その他

「平成7年度学術情報センター・セミナー研究レポート」（平成8年3月発行）を、各大学図書館宛にお送りしておりますので、参考にしてください。

4. 問い合わせ先

ご不明の点は下記までお問い合わせください。

〒112 東京都文京区大塚3-29-1

学術情報センター教育研修部研修課企画係、または指導第一係

(Tel.03-3942-6935, 6936, FAX.03-5395-7477)

(研修課)

平成8年度サービス利用説明会開催

前号で開催予定を紹介していますが、本センターの各サービスを利用していない機関を対象として、下記の日程で利用説明会を開催いたします。この利用説明会は、利用したい各サービスの紹介、概要説明、申請方法などを行っています。各サービスの操作方法など詳しい利用方法は、利用者となった後に研修課が企画している各講習会があります。

1. 目録所在情報サービス利用説明会

(1) 主な内容

①学術情報センターの概要、②目録所在情報サービスの概要、③学術情報センターとの接続方法、④利用申請方法、⑤研修の申込方法、⑥質疑応答・個別相談

(2) 開催日時および申込締切

	開 催 日 時	募 集 開 始	申 込 締 切
第2回	平成8年7月12日(金) 13:30～16:30	平成8年4月1日(月)	平成8年6月28日(金)
第3回	平成8年10月4日(金) 13:30～16:30	平成8年8月1日(木)	平成8年9月20日(金)
第4回	平成9年 2月7日(金) 13:30～16:30	平成9年1月6日(月)	平成9年1月24日(金)

(3) 対象機関

目録所在情報サービスに未接続の、大学、短期大学、高等専門学校、文部省および文化庁の施設等機関等、国公立試験研究機関、学術研究法人、学会、都道府県・政令指定都市立図書館など

2. 情報検索・電子メール利用説明会

(1) 主な内容

- ①学術情報センターの概要、②情報検索サービスおよび電子メールシステムの概要、③利用申請方法、④接続方法、⑤研修の申込方法、⑥質疑応答・個別相談

(2) 開催日時および申込締切

	開 催 日 時	募 集 開 始	申 込 締 切
第2回	平成8年 9月6日(金) 14:00~16:30	平成8年7月1日(月)	平成8年 8月23日(金)
第3回	平成8年11月8日(金) 14:00~16:30	平成8年9月2日(月)	平成8年10月25日(金)

(3) 対象機関

国公立試験研究機関、学会など

※本サービスの普及や本センターとの連絡調整などを担当される機関の職員の方を対象としています（個人としての参加は出来ません。）。

3. 学術情報ネットワーク加入説明会

(1) 主な内容

- ①学術情報センターの概要、②学術情報ネットワークの概要、③学術情報ネットワークとの接続の準備、④学術情報ネットワークの加入申請手順、⑤研修の申込方法、⑥質疑応答・個別相談

(2) 開催日時および申込締切

	開 催 日 時	募 集 開 始	申 込 締 切
第2回	平成8年11月22日(金) 14:00~16:30	平成8年4月1日(月)	平成8年11月8日(金)

(3) 対象機関

学術情報ネットワークに未接続の、大学、短期大学、高等専門学校、文部省および文化庁の施設等機関等、国公立試験研究機関、学術研究法人、学会、都道府県・政令指定都市立図書館など

なお、各回先着14機関とさせていただきますので、希望日を共同利用第一係まで電話(03-3942-6933)で予約(確認)のうえ、①参加希望の説明会名(目録所在情報サービス、情報検索・電子メール、学術情報ネットワーク)、②参加日(第○回○月○日)、③機関名、④機関の所在地、⑤参加者の職名および氏名(2名以内)、⑥連絡先の電話番号を記入して共同利用第一係までFAX(03-3942-6797)でお申し込みください。FAXの書式例は教育研修事業要綱に綴じ込んであります。

(共同利用第一係)

「国際間でのドキュメント・サプライのあり方をめぐる」 セミナー開催報告

学術情報センターと国公立大学図書館協力委員会（委員長館：千葉大学附属図書館）は、2月7日（火）東京大学総合図書館において、「国際間でのドキュメント・サプライのあり方をめぐる」と題したセミナーを共催で開催した。セミナーでは前カリフォルニア大学バークレー校図書館長で現在NCC（米国日本情報収集調整委員会）座長のドロシー・グレガー（Dr. Dorothy Gregor）博士およびCRL（米国研究図書館センター）所長のドナルド・シンプソン（Dr. Donald B. Simpson）博士の両氏が講演した。会場には国公立大学図書館協力委員会の東京大学、東京工業大学、横浜国立大学、東京都立大学、慶応義塾大学、早稲田大学、立教大学などの図書館から約30名が参加した。

講演では、北米の学術図書館における資源共有の現状やOCLCの相互協力の仕組みなどの報告があり、米国研究者の日本情報への関心は高く、インターネットを通じた日本の図書館目録、雑誌記事索引へのアクセスや電子的なドキュメント・デリバリーの方策を検討する必要性が強調された。このセミナーを機会に今後も引き続き日米図書館間の緊密な意見交換が必要であることを確認した。

（目録情報課）



講演するドナルド・シンプソン博士



講演するドロシー・グレガー博士

学術情報センター刊行物一覧

[平成7年3月～平成8年5月]

誌名および発行頻度	発行日
センターの総括的出版物	
学術情報センター要覧 和文編	年一回発刊 5月～6月
学術情報センター要覧 英文編	年一回発刊 8月～9月
学術情報センター年報 平成6年度	'95.6.1
学術情報センターニュース 最新刊35号	季刊 '96.3.15
NACSIS newsletter 最新刊No.13	年2回発刊 '96.2
研究報告	
学術情報センター紀要 第7号	'95.3.31
学術情報の国際交換に関する実証研究 平成6年度報告	'95.3
研究成果流通システムの研究開発 平成6年度報告	'95.3
WAINS 2: Proceedings of the 2nd International Workshop on Information Networks and Systems	'96.3
学術論文数の国際比較調査－理工・工学・医学分野の 学術論文数の動向－1976-1993	'96.3
調査報告	
平成7年度 学術情報データベース実態調査報告書	'96.3
講習会テキスト等	
目録システム講習会 テキスト 図書編	'96.4
検索課題集 図書編	'96.4
登録課題集 図書編	'96.4
目録システム講習会 テキスト 雑誌編	'96.4
検索課題編 雑誌編	'96.4
登録課題集 雑誌編	'96.4
ILLシステム講習会 テキスト	'96.4
テキスト付録	'96.4
NACSIS-IR講習会 テキスト (第4版)	'96.4
検索課題集 (第4版)	'96.4
データベースシート集	'96.4
電子メールシステム講習会 課題集	'96.5
学術情報センター・セミナー研究レポート	'96.3
平成7年度 地域講習会配付資料集	'96.3
平成7年度 学術情報センター シンポジウム	'95.10
平成8年度 研修事業要綱	'96.4
オンライン・システムニュースレター 最新刊No.54	'96.3.30

個別サービスに関する広報

NACSIS利用の手引〈情報検索・電子メール〉	
ー概要／申請手続き編ー 第4版	'96.4.1
まいと〜く for WIN によるNACSIS接続 (NACSIS接続案内 No.1)	'95.6.1
ターミナルによるNACSIS接続 (NACSIS接続案内 No.2)	'95.9.1
秀TermによるNACSIS接続 (NACSIS接続案内 No.3)	'96.4
学術情報センターILLシステム操作マニュアル 第3版	'96.3.29

人 事 異 動

発令年月日	氏 名	官 職 名	旧 官 職 名
(停年退職)			
8. 3. 31	山田 尚勇	中京大学情報科学部教授	企画調整官 (副所長)
(辞 職)			
8. 3. 31	藤代 節	神戸市看護大学コミュニケーション学 講座助教授	研究開発部学術情報研究系 情報図書館学研究部門助手
(採 用)			
8. 4. 1	山口 さら	管理部総務課国際交流係	
	松浦千穂子	事業部ネットワーク課ネットワーク運用係	
	山岡 規雄	事業部目録情報課図書目録情報係	国立国会図書館司書
	上村 順一	事業部目録情報課雑誌目録情報係	
	吉岡 真治	研究開発部学術情報研究系 データベース研究部門助手	
	植木浩一郎	研究開発部システム研究系 ネットワーク工学研究部門助手	
(転 入)			
8. 4. 1	岸 継明	事業部長	徳島大学庶務部長
	通山 正年	管理部会計課長	群馬大学経理部主計課長
	平野 文一	管理部共同利用課長	名古屋工業大学経理部主計課長
	牧村 正史	教育研修部研修課長	浜松医科大学教務部図書課長
	助川 一正	管理部会計課課長補佐	東京大学医学部附属病院管理課専門職員
	伊藤 利明	管理部会計課経理係長	東京大学経理部管財課管財第二掛管財主任
	宮永 勢次	事業部システム管理課システム業務係	大阪大学大型計算機センター
	柿沼 澄男	研究開発部研究動向調査研究系 理工系研究部門助教授	大臣官房調査統計企画課企画係長
8. 5. 1	武川利代巳	事業部システム管理課システム管理係	北海道大学大型計算機センター

発令年月日 氏名 官職名 旧官職名

(所内異動)

8. 4. 1	井上 如	企画調整官 (併任) (副所長)	研究開発部学術情報研究系 情報図書館学研究部門教授
	〃	教育研修部長 (併任解除)	
	濱田 喬	教育研修部長 (併任)	
	〃	研究開発部システム研究系研究主幹 (併任解除)	
	浅野正一郎	研究開発部システム研究系研究主幹 (併任)	
	宮澤 彰	研究開発部学術情報研究系 情報図書館学研究部門教授	研究開発部研究動向調査研究系 理工系研究部門教授
	小西 和信	事業部データベース課長	教育研修部研修課長
	鈴木 新一	事業部システム管理課課長補佐	事業部ネットワーク課国際情報専門員
	志津田嘉康	事業部ネットワーク課国際情報専門員	事業部システム管理課システム管理係長
	若宮 広和	管理部総務課庶務係長	教育研修部研修課企画係長
	櫻井美智雄	管理部共同利用課共同利用第一係長 管理部共同利用課共同利用第二係長 (併任)	管理部共同利用課共同利用第二係長
	松原 康夫	事業部システム管理課システム管理係長	事業部システム管理課システム業務係長
	石原 栄一	事業部システム管理課システム業務係長	事業部データベース課調査係長
	内田 邦夫	事業部ネットワーク課国際事業係長	事業部ネットワーク課ネットワーク管理係
	郷原 正好	事業部データベース課 全文データベース係長	事業部ネットワーク課国際事業係長
	木村 優	事業部データベース課 数値画像データベース係長	事業部データベース課全文データベース係長
	羽田 和久	事業部データベース課調査係長	管理部共同利用課共同利用第一係長
	鈴木 敬二	事業部目録情報課図書目録情報係長	事業部目録情報課専門・電子情報係長
	相原 雪乃	事業部目録情報課相互協力係長	管理部総務課国際交流係
	中田 多美	教育研修部研修課企画係長	教育研修部研修課指導第二係長
	茂出木理子	教育研修部研修課指導第二係長	事業部目録情報課図書目録情報係
	樋口 秀樹	事業部システム管理課システム業務係	事業部データベース課数値画像データベース係
	山西 秀幸	事業部ネットワーク課ネットワーク管理係	事業部ネットワーク課ネットワーク運用係
	川原井 淳	事業部ネットワーク課ネットワーク管理係	事業部システム管理課システム業務係
	赤堀 牧	事業部ネットワーク課国際事業係	事業部目録情報課図書目録情報係
	野沢 靖典	事業部データベース課文献データベース係	事業部システム管理課システム業務係
	佐藤 初美	事業部目録情報課図書目録情報係	事業部目録情報課雑誌目録情報係
	坂下 未穂	事業部目録情報課図書目録情報係	事業部データベース課文献データベース係
8. 5. 1	櫻井美智雄	管理部共同利用課共同利用第二係長 (併任解除)	
	山西 秀幸	管理部共同利用課共同利用第二係長	事業部ネットワーク課ネットワーク管理係
	計良 広幸	事業部ネットワーク課ネットワーク管理係	事業部システム管理課システム管理係
8. 5. 11	酒井 清彦	事業部目録情報課専門員 目録担当	事業部目録情報課図書目録情報係長

発令年月日 氏名 官職名 旧官職名

(職務命令)

8. 4. 1	酒井 清彦	事業部目録情報課目録専門員命	
	山西 秀幸	事業部ネットワーク課ネットワーク管理係 ネットワーク管理主任命	
	内田 邦夫	事業部ネットワーク課ネットワーク管理係 ネットワーク管理主任免	
	鈴木 新一	千葉分館勤務命	
	石原 栄一	千葉分館勤務命	
	樋口 秀樹	千葉分館勤務命	
	松原 康夫	千葉分館勤務免	
	川原井 淳	千葉分館勤務免	
	野沢 靖典	千葉分館勤務免	
	山西 秀幸	千葉分館勤務免	
8. 4. 1 5	宮永 勢次	千葉分館勤務命	
	松浦千穂子	千葉分館勤務命	
8. 5. 1	山西 秀幸	事業部ネットワーク課ネットワーク管理係 ネットワーク管理主任免	
8. 5. 11	酒井 清彦	事業部目録情報課目録専門員免	

(転出)

8. 4. 1	池之上忠教	東京国立近代美術館庶務課長	事業部長
	赤羽 鉦一	埼玉大学経理部経理課長	管理部会計課長
	石橋 栄	一橋大学経理部主計課長	管理部共同利用課長
	藤川 俊三	熊本大学庶務部研究協力課長	事業部データベース課長
	田中 恵庫	東京大学教養学部・数理科学研究科 総務課課長補佐	管理部会計課課長補佐
	貝田 辰雄	熊本大学経理部情報処理課長	事業部システム管理課課長補佐
	伊藤 嘉朗	東京大学理学部・ 理学系研究科人事掛長	管理部総務課庶務係長
	渡部 邦夫	東京大学気候システム研究センター 研究協力掛長	管理部会計課経理係長
	甲斐 重武	熊本大学附属図書館情報管理課目録係長	事業部データベース課数値画像データベース係長
	藤本 康宏	文部省学術国際局研究助成課	事業部ネットワーク課ネットワーク管理係
	木藤 淳子	国立国会図書館	事業部目録情報課図書目録情報係

海外渡航一覧

2.27 ~ 3. 2	浅野教授 (フランス共和国)
2.29 ~ 3. 9	井上教育研修部長 (アメリカ合衆国)
3. 1 ~ 12.31	影浦助教授 (連合王国)
3. 2 ~ 3.10	松方助教授 (アメリカ合衆国)
3. 5 ~ 3.15	西澤助手, 藤川データベース課長 (アメリカ合衆国)
3. 6 ~ 3.15	孫助手 (アメリカ合衆国)
3. 7 ~ 3.26	高須助教授 (アメリカ合衆国)
3. 7 ~ 3.15	大山助教授, 鶴岡助手 (カナダ, アメリカ合衆国)
3. 9 ~ 3.18	山田教授 (スペイン, シンガポール)
3.18 ~ 3.22	大山ネットワーク管理係長 (大韓民国)
3.18 ~ 4. 3	片山助手 (アメリカ合衆国)
3.21 ~ 3.27	宮澤教授, 鈴木専門・電子情報係長 (スウェーデン王国, スイス)
3.21 ~ 3.31	浅野教授 (アメリカ合衆国, フランス共和国)
3.21 ~ 3.25	松方助教授 (アメリカ合衆国)
3.23 ~ 3.28	小口助手 (アメリカ合衆国)
3.29 ~ 3.31	内藤教授 (タイ王国)
4. 4 ~ 4. 8	小野研究開発部長 (アメリカ合衆国)
4.25 ~ 5. 2	浅野教授 (ドイツ連邦共和国)
4.28 ~ 5. 8	杉本助手 (連合王国)
5. 3 ~ 5. 9	趙助手 (中華人民共和国)
5.20 ~ 5.27	内藤教授 (シンガポール)
5.20 ~ 5.30	浅野教授 (アメリカ合衆国)

学術情報センター日誌

[平成8年2月26日～平成8年4月17日]

- 2. 26 Science & Technology Japan Mr.Martin LOKEN,
International S&T Policy Mr.Collin FILDER 来訪
- 2. 28 第26回運営協議委員会 (小石川分館会議室)
- 3. 8 第21回評議員会 (小石川分館会議室)
- 3. 15 人文系共同利用機関情報システム実務担当者会議
人文系共同利用機関情報システム連絡会
学術情報センター・セミナー修了式
- 3. 25 ソウル国立大学教育研究コンピュータセンター長 Prof.Whan-Chul SHIN 来訪
タマサート大学図書館 Miss SIMLUX Suwanpanich, Mrs.PIMONMART
Kruthanooch, Mrs.SUCHITRA Utamawatin, Mrs.KANCHANAPORN Chitsanga,
Mrs.PRAPAIPHAN Jaruthavee 来訪
- 3. 26 韓国社会科学図書館長 Mrs.LEE Yong Joo,
韓国産業技術情報院情報資源部長 Dr.KIM Suk Young,
韓国学術振興財団情報センター長 Mr.JEE Jeong-gyu,
アドバイザー Mr.LEE Jae-wan, 情報システム係長 Mr.KIM Ju-bum 来訪
- 3. 29 センター送別会
- 4. 1 辞令交付
全米科学財団 Dr.Y.T. Chien 来訪
- 4. 5 センター歓迎会
- 4. 12 中国社会科学院情報研究センター 田国興主任, 張志銀副主任,
陸益民情報処理室主任 来訪
- 4. 17 国立国会図書館とのILL接続開始式 (於: 国立国会図書館)

学術情報センターニュース (第36号)

1996年6月14日発行

発行人 猪瀬 博

発行 学術情報センター 〒112 東京都文京区大塚3丁目29番1号

電話 (03)3942-6937 (直通) 共同利用課 情報・資料係